

繊維リサイクル工場を見学して



2015.11

コスモスが風に揺れる秋の1日、去る10月6日に衣生活部会のメンバー4名でナカノ(株)の秦野工場を見学しました。我が家には娘が居ることもあり不用になった大量の衣料をゴミ袋に入れて資源回収に出すことが多々あります。まだ着れるのに、もったいないという思いを常日頃抱いています。

ナカノ(株)は創業81年という歴史を持つ企業です。工場長の藤田修司氏よりお話しと見学案内をしていただくことができました。衣料は、国民1人当たり年間10キロ買って9キロ手放しているそうです。我が国の衣料のリサイクル率は2割なので、残りの8割は燃えるゴミとして捨てられてしまっているそうです。これはドイツの5割、アメリカの3割などと比べても低い水準となっています。

資源として回収される衣料は自治体の回収拠点から集められたものが大部分を占め、デパート、量販店などの民間企業や市民団体などによる回収の量は少ないということです。

この工場に集められた衣料は手作業で選別が行われていました。その後5割が中古衣料として東南アジアなどへ輸出されます。次に2割がウエスといって自動車工場などで油を拭く布に再利用されます。最後に残り3割が反毛という綿状の素材として自動車の断熱、防音材に再生されるそうです。これをリユース、リメイク、リソースの「リサイクル3R」というそうです。

反毛を利用して作った軍手を見せていただきましたが、新品の軍手に比べて漂白、染色などの工程がない分環境負荷が低く品質も確かでぜひ普及させたい製品だと思いました。「小さな工場から世界を見ている」という藤井氏のお言葉からは、仕事に対する気概と誇りのようなものを感じました。衣料はリサイクルにより、価値あるものに生き返るのだということにより多くの消費者に知っていただきたいと思いました。